



橋北小学校  
学校だより

No.10  
学力学習状況調査号  
令和5年9月20日

## 令和5年度全国学力学習状況調査の結果から

4月18日に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。この調査は、全国の6年生を対象に5年生までの学習内容の定着と、学習や生活の状況を調査するものです。今回の結果から見えてきた本校の学力の状況(強みや弱み)、改善に向けての取り組み等について下記のとおりお知らせします。一人ひとりの結果については個人票をお渡ししますので、その結果をもとに、強みをさらに伸ばすとともに、弱みの改善にむけて取り組んでいってほしいと思います。

1

学力の状況(国語・算数)



本校の正答率を全国平均と比較すると、国語は全国平均の正答率を上回り、算数は全国平均の正答率を下回る結果となりました。各教科の領域別の結果と強み(○)弱み(▼)は次の通りです。

### 国語

領域別にみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均程度、「情報の扱い方に関する事項」は全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」は全国平均をやや下回る結果でした。とりわけ、特に弱さが見られた領域は「書くこと」でした。

- 原因と結果など、情報と情報との関係について理解している。
- 目的に応じて文章と図表などを結びつけるなどして、必要な情報を見つける。
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。
  - ・漢字を文の中で適切に使う。 ○「比べて」 ▼「期間」 ▼「意外」
- ▼図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。
- ▼文章を読んで、理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
- ▼日常よく使われる敬語を理解している。

正答できなかった問題を具体的にみていくと、「自分の考えが伝わるように工夫して書き表したり、まとめた力」が弱いことがわかります。与えられた条件(キーワード、文字数制限)の中で、自分の考えを相手に伝わるように書きまとめる学習活動を充実させていく必要があります。

### 算数

領域別にみると「図形」は全国平均程度、「数と計算」「変化と関係」は全国平均を下回りました。特に弱さが見られた領域は「データの活用」でした。

- 正三角形の意味や性質について理解している。
- 正方形の意味や性質について理解している
- 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。
- ▼いす4脚で7Kgのとき、48脚の重さの求め方を、比例の関係であることを用いて、式と言葉で説明する。
- ▼底辺と高さが同じ長さの三角形の面積は等しいことを理解している。
- ▼示された日常場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる。
- ▼二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。

今回のテストで日常場面を想定した問い(椅子 48脚の重さを比例を使って求める問い・一人5cmの厚さのファイルが、120cmの幅の棚にクラス全員分が収まるのか確認する問い)で、全国平均を下回っている。日常場面の中で、計算(算数で学習したこと)を使うことで、生活が便利に豊かになるといった経験をより多く実感させることが大切であると考えます。

## 結果を受けて

- ☆条件や字数を設定し、その条件内で自分の考えをまとめる活動を取り入れていきます。  
(【例1】授業のふりかえり 【例2】あさの学習プリント)
- ☆日常場面の中で、計算(算数の時間に学習したこと)を使うことで、生活が便利に豊かになるといった経験をより多く実感させることが必要であると考えます。  
(【例】日常の場面で使った計算を黒板に提示する 子どもたちに意識させる)
- ☆家庭学習でも、自分の苦手なところを意識して学習できるよう、タブレット、ドリル等を用いて苦手さに応じて反復練習をさせたり、自主学習の進め方を個別で指導したりしていきます。

2

## 学習や生活の状況



### 自分自身について

- ▼「自分にはよいところがあると思う」「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答は、全国平均を下回っている。  
⇒ ☆ ありのままの自分を受け入れ、お互いに自分自身や相手を誇りに思えるような関係づくり、環境づくりが必要だと考えます。

### 学校生活について

- ▼「先生は、あなたのようによいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのは楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の肯定的回答は、全国平均を下回っている。  
⇒ ☆ 子どもにとって、学校や教職員がどのような存在となっているのか、今一度振り返り、子どもたちにとって望ましい学校であり、教職員でなければならないと考えます。
- ▼「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」に対して肯定的回答者は、全国平均を下回っている。  
⇒ ☆ 多様な価値観に触れ、新しい出会いや発見を楽しむ気持ちを育む必要があると考えます。同一学年、異学年にかかわらず、お互いのありのままを受け止め認め合い、自分と違う意見に触れることを新たな発見や出会いの機会と前向きに捉えることができるよう、学級や学校の雰囲気作りを行います。

### 生活習慣について

- 基本的な生活習慣「朝食を毎日食べる」「毎日同じくらいの時刻に起きる」に「している・どちらかといえばしている」と肯定的回答した児童は全国平均を上回っています。
- ▼「毎日同じくらいの時刻に寝る」に「している・どちらかといえばしている」と肯定的回答した児童は全国平均を下回っており(朝は決められた時間に起床するが)、夜は寝る時間が不規則になりがちとなっている。

### 家庭での学習や読書の習慣について

- 「普段 1 日当たりどれくらいの時間読書しますか」について、「30分以上」と回答した児童は全国平均をやや上回っている。約40%の児童が30分以上の読書を行っている。
- ▼「普段 1 日当たりどれくらいの時間読書しますか」について「まったくしない」と回答した児童は全国平均を上回っている。約40%の児童が読書を全く行っていない。
- 「学校の授業以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間勉強しますか」について、「30分以上」と回答した児童は全体の85%で全国平均をやや上回っている。
- ▼「土日や学校が休みの日に 1 日当たりどれくらいの時間勉強しますか」について、「まったくしない」と回答した児童は全国平均を上回っている。約25%の児童が土日や休みの日に勉強を全く行っていない。  
⇒ ☆ 家庭学習については「時間」だけではなく「質」(自分の苦手さを補う、さらに発展的な学習をする、自分が興味あることを深く追及する、連続性のある学習に取り組むなど)を高めていくことが次の課題です。家庭読書については、全校で意識して取り組んでいくことが求められます。

今回の結果もいかし、これからも学校と家庭と地域が連携し、子どもたちの育ちを支えていきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。